

令和6年度

県 営 土 地 改 良 事 業 計 画 書

(農 道 整 備)

〔中山間地域農業農村総合整備事業〕

都道府県名	福 岡
-------	-----

地 区 名	奥八女東部地区
-------	---------

所 在 地	八 女 市
-------	-------

事 業 主 体	福 岡 県
---------	-------

目

第1章	目 的	1
第2章	地域及び地積	1
第1節	地 域	1
第2節	地 積	1
第3章	現 況	2
第1節	気象及び海象	2
1.	一般気象	2
2.	特殊気象	3
3.	海 象	3
第2節	土地状況	4
1.	地形、土壌及び浸食の程度	4
2.	土地分類	5
3.	土地利用の状況	6
4.	土地所有の状況	7
第3節	水利状況	8
1.	用水状況	—
2.	排水状況	—
3.	河川状況	—
第4節	道路概況	8
1.	道路概況	8
2.	主要道路一覧表	8
第5節	地域農業の概況	9
1.	産業別就業人口	9
2.	経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼別農家数	10
3.	動力農機具及び主要家畜頭数	11
4.	主要作物作付状況	12
5.	農業の動向	13
第6節	地域環境の概況	14

次

第4章	一般計画	15
第1節	事業計画の要旨	15
1.	要 旨	15
2.	事業別面積	15
第2節	営農計画及び土地利用計画	16
1.	営農計画の概要	16
2.	土地利用区分	16
3.	作付方式	17
4.	生産計画	17
5.	労働改善計画	17
6.	級地別土地利用区分	17
7.	土地配分計画	17
第3節	用水計画	17
1.	計画基準年	—
2.	計画かんがい方式	—
3.	計画用水系統	—
4.	計画用水量	—
5.	水源計画	—
第4節	排水計画	17
1.	計画基準雨量	—
2.	計画排水方式	—
3.	計画排水系統	—
4.	計画排水量	—
5.	排水対策	—
6.	湛水検討	—
第5節	道路計画	18
1.	道路及び索道	18
2.	路線配置図	19

目

第6節	農用地造成計画	19
1.	農用地造成計画	—
2.	土壌改良	—
第7節	洪水調節計画	19
1.	計画基準雨量	—
2.	計画洪水量及び調節量	—
3.	貯水池	—
4.	洪水調節検討	—
5.	管理計画	—
第8節	干拓計画	19
第9節	農用地整備計画	19
1.	区画整理	—
2.	暗渠排水	—
3.	客土	—
4.	農地保全	—
第10節	老朽ため池改修計画	19
1.	洪水吐改修計画	—
2.	堤体補強計画	—
3.	取水施設改修計画	—
第5章	主要工事計画	20
第1節	用水施設	20
1.	貯水池	—
2.	頭首工	—
3.	揚水機	—
4.	用水路	—
5.	その他かんがい施設	—
第2節	排水施設	20
1.	排水水門	—
2.	排水機	—
3.	排水路	—
4.	その他排水施設	—

次

第3節	道路及び索道	20
1.	道 路	20
2.	索 道	21
第4節	農用地造成	21
1.	農用地造成	—
2.	土壌改良	—
第5節	洪水調節施設	21
1.	貯水池	—
2.	頭首工及び導水施設	—
第6節	干拓施設	21
1.	堤 防	—
2.	潮 止 め	—
3.	付属施設	—
4.	埋 立	—
第7節	農用地整備施設	21
1.	区画整理	—
2.	暗渠排水	—
3.	客 土	—
4.	除 礫	—
5.	農地保全	—
第8節	老朽ため池改修施設	21
1.	貯水池	—
2.	堤体補強施設	—
第6章	附帯工事計画	22
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	22
第8章	環境との調和への配慮	23
第1節	配慮の対象	23
1.	植 物	23
2.	動 物	23

目

次

第2節	配慮の考え方	23
第9章	換地計画の概要	24
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	—
第2節	換地区の設定	—
1.	換地区の名称、所在、面積	—
2.	換地区を設定する理由	—
第3節	換地計画樹立の基本方針	—
1.	従前の土地の地積の基準	—
2.	用途別予定地積	—
3.	農用地集団化の方針	—
4.	非農用地の換地方法	—
第4節	土地の評価及び清算の方法	—
1.	評価の方法	—
2.	清算の方法	—
第5節	換地計画樹立の年度計画	—
第6節	換地処分 of 時期に関する特則	—
第10章	事業費の総額及び内訳	25
第11章	効 用	26
第12章	関連する事業	27
第13章	現況・計画図面	27
1.	現況平面図	別途
2.	計画平面図及び主要構造図	別途

第1章 目 的

本地区の農道は、幅員が2.0～3.0m程度と狭小であるため車両のすれ違いは困難であり、農産物の輸送、営農資材の搬出、搬入や農業機械の運行等、農業生産活動に支障をきたしている。

そのため、農道の拡幅、アスファルト舗装等の整備により、農業機械の通行並びに農産物の運搬等を円滑にし、営農に係る作業負担の軽減と営農効率の向上を目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
農道整備事業	福岡県八女市黒木町

第2節 地 積

(令和4年12月現在)

(第2表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農道整備事業	八女市	4.3	15.9	—	—	—	20.2	
合 計		4.3	15.9	—	—	—	20.2	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	黒木観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	S51～R3	6月～10月	11月～5月		
平 均 気 温 (°C)		23.1	9.8	15.4	
降 水 量	平 均 (mm)	1,305	764.0	2,069	
	基 準 年 (mm)	—	—	—	
降水日数	平 均 (日)	113	100	213	
	基 準 年 (日)	—	—	—	
根 雪 期 間		—			
無 霜 期 間		—			
最 多 風 向		NNW	最 大 風 速 (風向)	17.0 m/s (S)	最大風速発生年月日 平成16年9月

2. 特殊気象

(第3表－2)

観 測 所 名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
黒 木 観 測 所																
観 測 期 間	数	年 月 日	発 生 確 率	数	年 月 日	発 生 確 率	数	年 月 日	発 生 確 率	数	年 月 日	発 生 確 率	数	年 月 日	発 生 確 率	
S51年～R3年	量			量			量			量			量			
最大日雨量 (mm)	415.0	H24.7.14	1/431	301.0	R3.8.14	1/33	287.5	R2.7.6	1/25	255.5	H30.7.6	1/13	226.0	S63.6.23	1/7	
最大時間雨量 (mm)	91.5	H24.7.14	1/51	83.0	H10.8.17	1/26	79.5	H25.7.3	1/20	77.0	H7.7.2	1/16	74.0	R3.9.2	1/13	
最大4時間雨量 (mm)	219	H24.7.14	1/112	170	R1.8.28	1/24	151	H20.6.19	1/13	149	S63.6.23	1/12	146	R2.7.10	1/11	
最大連続雨量 (mm)	996	R3.8.11～ R3.8.22	—	936	R2.7.3～ R2.7.16	—	909	S60.6.24～ S60.7.6	—	691	S54.6.24～ S54.7.4	—	649	H24.7.11～ H24.7.14	—	
最大連続干天日数 (日)	56	H6.6.23～ H6.8.17	—	51	R3.9.18～ R3.11.7	—	49	H18.9.18～ H18.11.5	—	47	S63.10.7～ S63.11.22	—	44	S58.10.27～ S58.12.9	—	

3. 海 象

該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(1) 地形

(第4表-1-1)

事業名	地 目	田						畑・その他						受益地標高 (m)		備 考
	傾斜区分	1/1,000 未 満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以 上	計	3° 未 満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以 上	計	最高	最低	
農道整備事業	面積 (ha)			0.1	0.5	8.2	8.8	0.7	2.3	5.9	1.1	1.4	11.4	428	90	
	比率 (%)			1.1	5.7	93.2	100.0	6.1	20.2	51.8	9.6	12.3	100.0			
合 計	面積 (ha)			0.1	0.5	8.2	8.8	0.7	2.3	5.9	1.1	1.4	11.4	428	90	
	比率 (%)			1.1	5.7	93.2	100.0	6.1	20.2	51.8	9.6	12.3	100.0			

(2) 土壌

(第4表－1－2)

項 目 土壌統(区)名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表									面 積 (ha)		備 考
	土 壤 断 面						堆 積 様 式	母 材	事 業 名			
	色	腐 植 層	礫 層	土 性		泥 炭 層 黒 泥 層 及びグライ層			農 道 整 備	計		
				表土	下 層 土							
				一層	二層	三層						
北多久統	— $\frac{YR}{YR}$ —	なし	なし	強粘質	強粘質	—	—	水積	固結火成岩	2.6	2.6	
三河内統	— $\frac{Y}{Y}$ —	なし	なし	強粘質	強粘質	—	—	水積	固結火成岩	3.6	3.6	
屋形統	— $\frac{Y}{Y}$ —	なし	なし	強粘質	強粘質	—	—	水積	固結火成岩	14.0	14.0	
計										20.2	20.2	

2. 土地分類

該 当 な し

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用区分 市町村名	耕 地						山 林		採草放牧地 (ha)	原 野 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	そ 樹 の 園 他 の 地 (ha)	用 材 林 (ha)	薪 炭 林 (ha)					
農道整備事業	八 女 市	4.3	15.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.2	
	計	4.3	15.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.2	
	合 計	4.3	15.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.2	

4. 土地所有の状況

(第4表－4)

事業名	所有別 区分	個人有				計	備 考
農 道 整 備 事 業	面 積 (ha)	20.2				20.2	
	受益者数 (人)	82				82	
	筆 数 (筆)	443				443	
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						
合 計	面 積 (ha)	20.2				20.2	
	受益者数 (人)	82				82	
	筆 数 (筆)	443				443	
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						

第3節 水利状況

該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況

主要道路として国道442号が東西に走っており、県道田主丸黒木線、県道黒木鹿北線、県道浮羽石川内線等が隣接市町村への主要な交通軸となっている。

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項 目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 採石業 砂利採取業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス 熱供給 水道業 (人)	運 輸 通信業 (人)	卸売業 小売業 (人)	金融業 保険業 (人)	不動産業 物品賃貸業 (人)	サービ ス 業 (人)	公 務 (人)	その他 (人)	備 考
八 女 市	30,782	5,239	176	5	3	2,681	3,982	60	1,508	4,004	331	232	4,689	930	6,942	2 0 2 0 年 国 勢 調 査
計	30,782	5,239	176	5	3	2,681	3,982	60	1,508	4,004	331	232	4,689	930	6,942	
比率(%)	100.0	17.0	0.6	0.0	0.0	8.7	12.9	0.2	4.9	13.0	1.1	0.8	15.2	3.0	22.6	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	総 農 家 数 (戸)	経 営 耕 地 広 狭 別 農 家 数 (戸)											1 戸 当 た り 平 均 農 用 地 面 積 (ha)						専 兼 業 別 農 家 数(戸)※			備 考
		を 例 外 規 定 の 適 用 を 受 け る も の	0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	自 給 的 農 家	田	畑	樹 園 地	小 計	草 地	計	専 業	兼 業		
			～	～	～	～	～	～	～	～	ha									第 一 種	第 二 種	
			0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	以上											
八 女 市	2,435	84	529	750	390	186	205	197	79	9	6		0.7	0.5	1.3	2.5	0	2.5	1,484	585	1,075	※ 2 0 2 0 1 0 5 年 農 林 業 セ ン サ ス
計	2,435	84	529	750	390	186	205	197	79	9	6	0							1,484	585	1,075	
比率(%)	100	3	22	31	16	8	8	8	3	1	0	0							47%	19%	34%	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

市町村名	項 目		動 力 農 機 具				主 要 家 畜								備 考
	トラクター		コンバイン		田 植 機		乳 用 牛		肉 用 牛		豚		採卵鶏		
	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (台)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	数 量 (頭)	経営体数 (経営体)	
八 女 市	2,280	2,091	1,260	1,219	1,604	1,555	329	8	x	10	17,020	5	4,502	3	2020年 農林業センサス 動力農機具 平成27年農林業センサス ※「x」は秘密保持上統計数値を 公表しないもの。 ※動力農機具については、2020 年 農林業センサスに記載なし
計	2,280	2,091	1,260	1,219	1,604	1,555	329	8	x	10	17,020	5	4,502	3	
100経営体当たり数量 (台・頭)	109		103		103		-		-		-		-		農業経営体数 2,435 経営体
利用経営体数割合 (%)	86%		50%		64%		-		-		-		-		

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名			八 女 市						計	平 均	作付割合 (%)	備 考
総耕地面積(ha)			6,450						6,450			
総本地面積(ha)			2,230						2,230			
区 分 作 物 名			作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当り収量 (kg/10a)		
田	表 作	水 稻	1,220	443					1,220	443	55	第68次九州農林 水産統計年報(市 町村別データ)
		豆 類 (大 豆)	80	129					80	129	4	
	裏 作	麦 類 (小 麦)	260	401					260	401	12	
		麦 類 (大 麦)	78	473					78	473	3	
	小 計		1,638						1,638		73	
計			1,638						1,638			
市 町 村 別 延べ作付率(%)			73%						73%			

5. 農業の動向

(第7表－5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			主 要 家 畜			動 力 農 機 具			地域 指定等	備 考
		B	A		B	A	作 物 名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
変化 の 状 況 (C年を100とする指数)	総農家数	86	65	耕 地	89	69	水 稻	92	80	乳用牛	63	50	トラクター	81	－	過疎地域R3 中山間地域H29	A: 令和2年 (2020年 農林業センサス) B: 平成27年 (2015年 農林業センサス) C: 平成22年 (2010年 農林業センサス) (農業就業人口: 国勢調査) ※「－」は2020年センサスに記載なし
	専業農家数	95	－	田	88	64	麦 類	87	76	肉用牛	100	91	コンバイン	79	－		
	第一種兼業農家数	76	－	畑	182	143	大 豆	142	122	採卵鶏	83	50	田植機	76	－		
	第二種兼業農家数	75	－	樹園地	78	64											
	農業就業人口	90	74														
変化の理由	他産業への転業及び後継者不足による減少			農家数の減少及び、農地の転用等により耕地減少			耕地の減少及び作付け体系の変化による増減			畜産経営体戸数の減少			農家数の減少に伴う所有台数減				

第6節 地域環境の概況

1. 動物等生態系の概要

調査により抽出された生物は以下のとおりである。

維管束植物(シナミズニラ、エビガラシダ、ムラサキベニシダ、チャボツメレンゲ、ミズスキナ、タチモ、カリガネソウ、マルバノホロシ、イスハハコ、ヒメウラジロ、オキナグサ、ヒロハコンロンカ、ヤマトミクリ)

鳥類(ブッポウソウ、アオバズク) 両生類(トノサマガエル、カミサンショウウオ、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル)

淡水魚類(アカサ、ニッポンバラタナゴ、カサトゲタナゴ、トシヨウ、カジカ)

昆虫類(クロシジミ、オオウラギンスジヒョウモン、オオムラサキ、オオアメンボ、タガメ)

『参考文献：黒木町田園環境整備マスタープラン・福岡県レッドデータブック』

2. その他の地域環境の概要

本市は福岡県の南部、福岡市から南へ約50kmに位置し、北は広川町、久留米市、うきは市、南は熊本県、東は大分県と県境に面している。

本市の面積は482.44km²で、県内では北九州市に次ぐ広大な面積であり、西部は平野で、東及び南東部は森林が大半を占めている。市内には釈迦ヶ岳山地に源を発した矢部川が東部から西部へ流れ有明海に注いでおり、星野川、田代川、辺春川、白木川、横山川及び花宗川などの中小の河川が市内を流れ、農業や伝統産業及び自然環境の基となっている。

本地区である旧黒木町の東端には、県営日向神ダムとその補助ダムである松瀬ダムがあり、洪水調節や発電、農業用水としての利用など多目的ダムとしての役割を果たしている。

また、農業用水確保のため花宗ため池をはじめとして、大小のため池が数多く築造され、河川の各堰で取水される水と同様に用水路により農地を潤している。

第4章 一 般 計 画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本事業において、農道を整備することにより営農に係る作業負担の軽減と農産物輸送など営農効率の向上を図るとともに、農産物の品質の向上を図るものである。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	農道整備事業				計 (ha)	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)		
道路拡幅・舗装	4.3	15.9	—	—	20.2	
計	4.3	15.9	—	—	20.2	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

該当なし

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	土地利用区分	水 田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶 園	その他の 樹 園 地	小 計	原 野	山 林	その他	計	備 考
	区 分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農道整備事業	現 況	4.3	15.9	—	—	—	—	20.2	—	—	—	20.2	
	計 画	4.3	15.9	—	—	—	—	20.2	—	—	—	20.2	
計	現 況	4.3	15.9	—	—	—	—	20.2	—	—	—	20.2	
	計 画	4.3	15.9	—	—	—	—	20.2	—	—	—	20.2	

3. 作付方式

該 当 な し

4. 生産計画

該 当 な し

5. 労働改善計画

該 当 な し

6. 級地別土地利用区分

該 当 な し

7. 土地配分計画

該 当 な し

第3節 用水計画

該 当 な し

第4節 排水計画

該 当 な し

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

項 目 路 線 名	幅(有効)×延長 (m) (m)	構 造	既設道路との関係	備 考
黒木-1	4.5 (3.5) × 760	アスファルト舗装		
黒木-9	4.5 (3.5) × 1036	アスファルト舗装		
黒木-27	4.5 (3.5) × 115	アスファルト舗装		
黒木-29	4.5 (3.5) × 225	アスファルト舗装		

2. 路線配置図

別紙図面のとおり

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調節計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

該当なし

第2節 排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道 路

(1) 道路の総括表

(第19表－1)

区分	項目 路線名	幅(有効)×延長 (m) (km)		構造	附帯構造物			最急勾配 (%)	同左の延長 (m)	最小曲線半径 (m)	備考
					名称	構造	数量 (箇所)				
農 道	黒木-1	4.5 (3.5)	× 760	アスファルト舗装							
	黒木-9	4.5 (3.5)	× 1036	アスファルト舗装							
	黒木-27	4.5 (3.5)	× 115	アスファルト舗装							
	黒木-29	4.5 (3.5)	× 225	アスファルト舗装							

2. 索 道

該 当 な し

第4節 農用地造成

該 当 な し

第5節 洪水調節施設

該 当 な し

第6節 干拓施設

該 当 な し

第7節 農用地整備施設

該 当 な し

第8節 老朽ため池改修施設

該 当 な し

第6章 附 帯 工 事 計 画

該 当 な し

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

着 手 令和6年度(2024年度)

完 了 令和11年度(2029年度)

第8章 環境との調和への配慮

第1節 配慮の対象

1. 植物

該当なし

2. 動物

両生類

第2節 配慮の考え方

- ① 工事期間中に発見された個体は、施工区間外の周辺の類似した環境へ移動させるなどして、悪影響の軽減に努める。
- ② 工事期間中は、工事車両によるロードキルが起これないよう、関係者に対して減速等の配慮を周知することに努める。

第9章 換地計画の概要

該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名		農道整備事業		備考
区分		(千円)		
事業費	主 要 工 事	純工事費	250,510	
		測量試験費	37,100	
		用地買収及び補償費	18,390	
		計	306,000	
工事雑費		6,000		
事務費		15,000		
合 計		327,000		
関連事業（参考）				

第11章 効 用

(第27表)

事 業 名	項 目	年増加見込効果額 (千 円)	年増加見込所得額 (千 円)	備 考
	区 分			
農 道 整 備 事 業	品質向上効果	310	310	
	維持管理費節減効果	△ 5	4	
	営農に係る 走行経費節減効果	12,824	723	
	一般交通等経費節減効果	3,565	3,565	
	計	16,694	4,602	

<参 考>

総便益(現在価値化) : 332,941 千円

総費用総便益比 : 1.15

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現 況 ・ 計 画 図 面

1. 現況平面図

別紙図面のとおり

2. 計画平面図

別紙図面のとおり

3. 主要構造図

別紙図面のとおり